

身近な地質スポット

恵那峡（傘岩・千畳敷岩）／岐阜県恵那市

今回は、岐阜県恵那市から中津川市を流れている木曽川中流の渓谷である恵那峡へ行ってきました。恵那峡は約80年前に木曽川をせき止めて作られた大井ダムによってできた人造湖で、大正9年に地理学者の志賀重昂によって恵那峡と命名されました。恵那峡一帯には奇岩が多く点在しており、屏風岩、軍艦岩、獅子岩、鏡岩など様々な奇岩を見ることができ、それらを見物するための遊覧船が周航している景勝地となっています。

この景勝地の一帯の中でも際立つ奇岩が「傘岩」と「千畳敷岩」です。傘岩は高さ約4.3m、頂部の周囲は約10.2m、最もくびれている部分の周囲は約2.3mの奇岩です。（写真-1）

傘岩は恵那峡公園の中にあり、柵で囲われていましたが、斜面にボツンとあるような状態でなんと不思議です。一見すると大きな転石のようにも見えるのですが、よく見ると下部は岩盤の苗木花崗岩に接続していることがわかります。

・苗木花崗岩

(https://www.chubugeo.org/data/geo/pdf/chishitsu_06.pdf)



写真-1 傘岩

恵那峡周辺に分布するこの苗木花崗岩（図-1）の多くは、広く風化してマサ化していることが確認されています。とはいえ、風化が均一に進行しているわけではないようで、付近の蛭川村にある砕石場ではマサ化した層の1mほど下位には新鮮な花崗岩があり、深部まで風化が達していない地点があります。一方で、恵那峡の両岸にみられる岩々は、深部まで風化しているのか、木曽川の河流によって深く削りこまれ硬固部分の岩石からなっている地点が窺えます。傘岩は、そのような不均等な風化と侵食、様々な自然の条件が重なりから形成された岩であり、一見の価値があるのではないのでしょうか。

この傘岩のすぐ隣にあるのが千畳敷岩(写真-2)です。こちら珍しい形をしており、表層のマサ土が侵食によって除去されて地表に現れた岩盤の部分だと思われます。節理が発達しておらず、平らな一枚岩のようになっており、千畳あるわけではありませんが、写真に収まりきれないほど巨大な一枚岩です。

恵那峡一帯はこのような岩がごろごろしており、どのような経緯でこのような形になったのか、しみじみと考えてしまいます。四季折々の風景も楽しめるようですので、是非訪れてみてはいかがでしょうか。



図-1 恵那峡周辺の地質図



写真-2 千畳敷岩

余談ですが、
この地質スポットの近くには、こんなお店がありました。

【 麵屋 ささいち 】



地図の出典:NAVITIME ホームページ <https://www.navitime.co.jp>



麵屋 ささいち

岐阜県恵那市大井町 2 1 9 4 - 2 2 4

TEL 0573-26-1488

営業時間/ 11:00~0:30

木曜定休日



本格とんこつ、肉そば、味わいみそを代表に
色々ありましたが、今回は肉そばをチョイスしました。

見た目は少々重そうな感じですが、
豚しゃぶなのでさっぱり食べられます。
また自家製の焦がしニンニクが効いて味もしっかりしており
美味しかったです。インターも近いのでアクセスもばっちり。